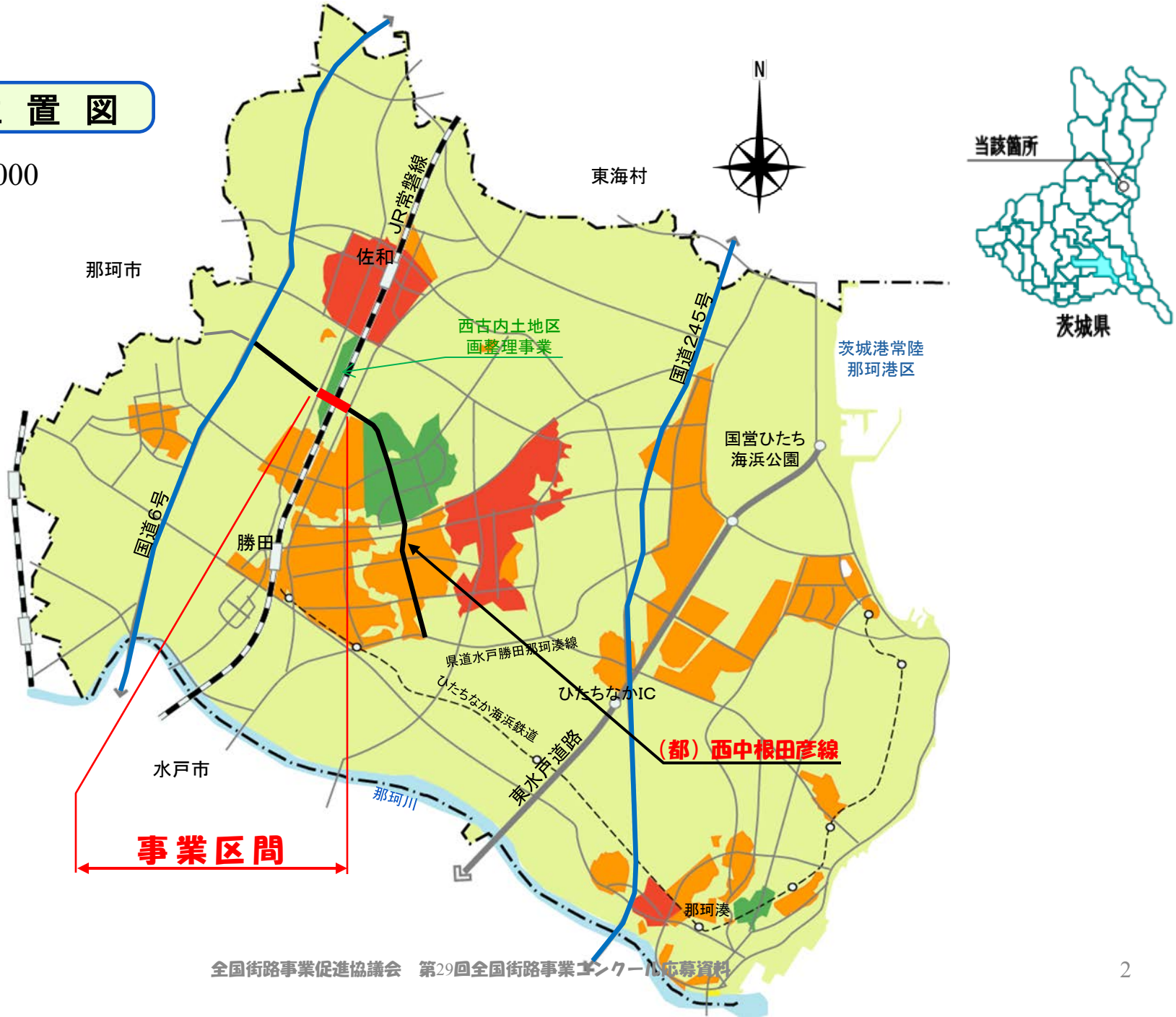
第29回　全国街路事業コンクール応募資料

様式1

ふりがな		いばらきけんひたちなかし　としせいびぶ　としけいかくか
応募者名		茨城県ひたちなか市　都市整備部　都市計画課
街路事業	ふりがな	にしなかねたびこせん　じょうばんせんりったいこうさじぎょう
	事業の名称	西中根田彦線JR常磐線立体交差事業
	ふりがな	いばらきけんひたちなかし
	事業主体	茨城県ひたちなか市
	ふりがな	いばらきけんひたちなかし
	実施都市名	茨城県ひたちなか市
事業概要 （400字以内）		本事業は，JR常磐線と交差する都市計画道路「西中根田彦線」の未整備区間について，鉄道をオーバーパスで跨ぐ道路橋により立体交差化を図った街路事業である。 昭和18年に都市計画決定された西中根田彦線は，本市の都市基盤を支える環状道路として重要な路線で，東部地域の県道水戸勝田那珂湊線から西部地域の国道6号を結ぶ全長5，250mの都市計画道路である。鉄道と交差する延長429mの区間については区画整理事業に併せた整備を検討してきた関係などから，これまで事業化に至らなかったものの，その間，市街地を鉄道で分断されている本市にとって，鉄道横断部周辺で発生する交通流の停滞は喫緊の課題であった。 このことから，平成21年11月に事業認可を取得し事業に着手，JR西側については区画整理方式，JR東側については任意買収方式により事業用地を取得し，鉄道までのアプローチ部の盛土工事やJRとの協定による上部工架設工事等を経て，当初の計画通り7年で事業を完了させ，平成28年2月27日全線開通に至った。
事業規模		○事業延長：429m（内橋梁区間34．2m） ○事業費：1，232百万円（国補分），118百万円（市単分） ○幅員：21．5m（車道7．0m） ○事業期間：平成21年度～平成27年度
事業の目的		JR常磐線と交差する未整備区間を立体交差化することにより，分断されていた市街地間を相互に結び都市交通の円滑化と交通渋滞の緩和を図る。また，本事業により本市の中心市街地や茨城港常陸那珂港区を有するひたちなか地区と国道6号・常磐自動車道へのアクセス性が高まるなど，地域活性化や経済活動の向上，緊急避難・物資輸送路としての防災機能の強化を図る。さらに，本事業により最寄の狭隘な踏切を除却することで踏切事故防止を図るともに，歩行者の安全な歩行空間を創出する。
事業効果	事業効果項目	・様式2のとおり（該当項目にﾁｪｯｸを付す）
	事業効果の概要	• JR常磐線を横断する競合路線や周辺路線の渋滞緩和 • 利便性の向上に伴う，経済活動の活性化と，鉄道により東西に分断された地域交流の拡大 • 本事業のバイパス整備に伴う，抜道として利用されていた狭隘な生活道路の交通量減少（歩行者等の安全確保） • 踏切除却に伴う，踏切事故防止効果
	定量的効果 （検証済の場合記入）	• JR常磐線を横断する既存の跨線橋や踏切道において，1割程度交通量が減少。特に，朝夕のラッシュ時では，2割程度交通量が減少。 • 経済活動の活性化や東西の地域交流拡大に伴い，常磐線を横断する交通量は1割程度増加。 • 除却した踏切を横断していた自動車交通量1，990台/日と自転車・歩行者507人/日は新橋へシフトし，安全が確保。
地元対応等	・地域住民との協働等 ・事業反対等はあったか ・合意形成等を図ったか ・地域に配慮した点 ・その他	本事業では，地域住民で総有する八坂神社が用地補償の対象となっていたが，所有権は住民の中で共有の形態を取っていたことから，未相続者を含め権利者が50人以上に昇っていた。地域ではこの所有権の問題が課題となっていたことから，市では事業に必要な用地を単純に収用するだけで無く，地域との協働により，はじめに住民代表に所有権を集約（委任の終了）する手法を取り，その後用地を取得することとした。また，開通式では，地元自治会との協働により，住民がついた紅白もちの配布や小学校のウェルカム演奏などを実施した。鉄道で分断されていた地域が繋がり地域交流のかけ橋が完成したことで，3000人に昇る住民が集まり，地域をあげて開通を祝った。

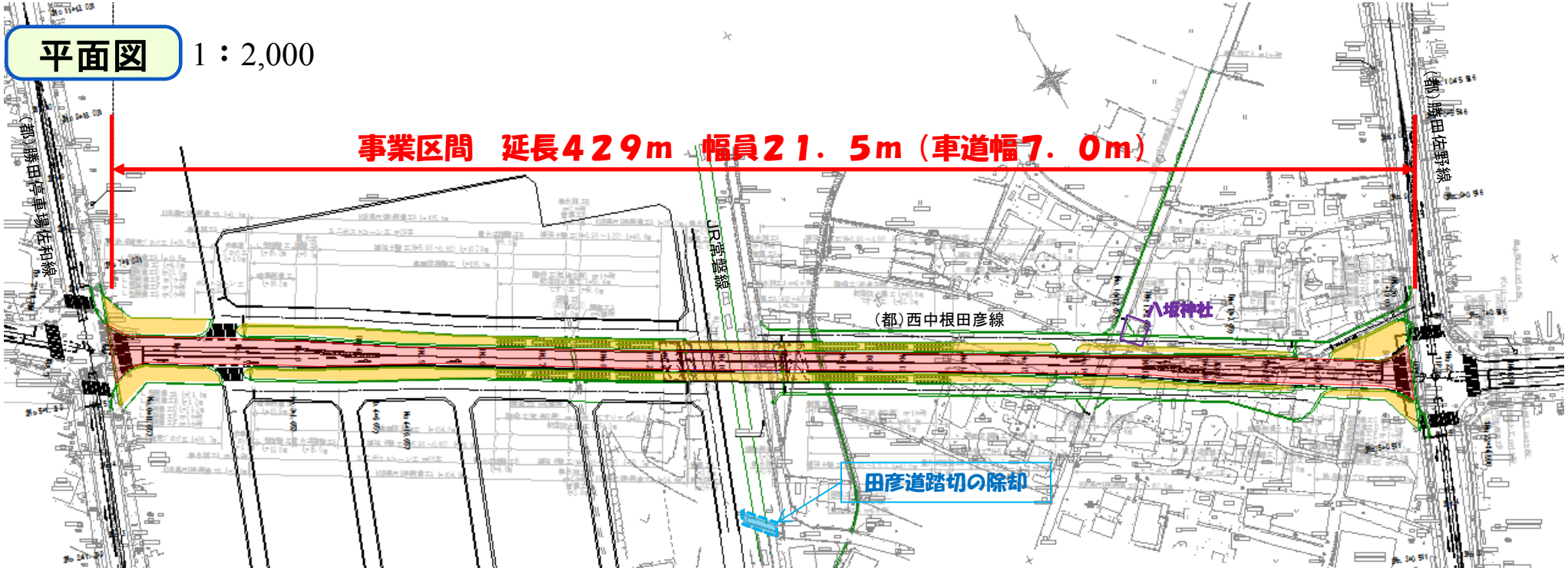
事 業 位 置 図

1：80,000



平面図

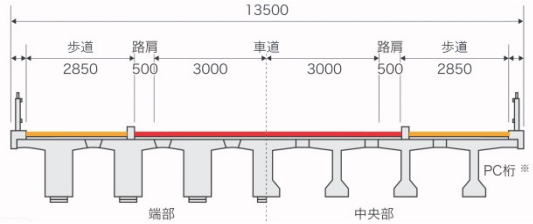
1：2,000



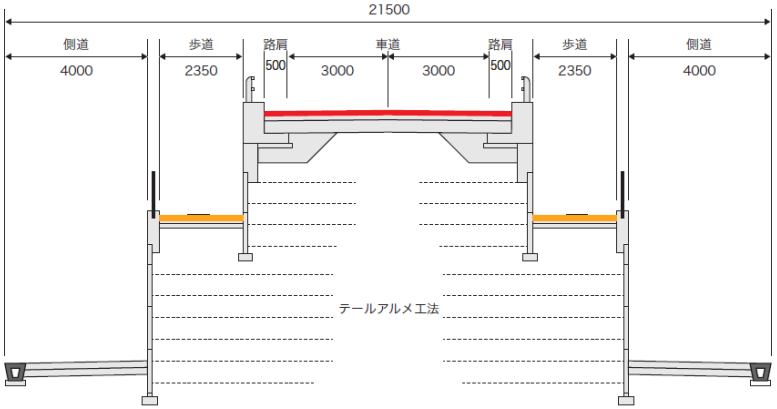
横断図

縮尺：FREE

橋梁区間

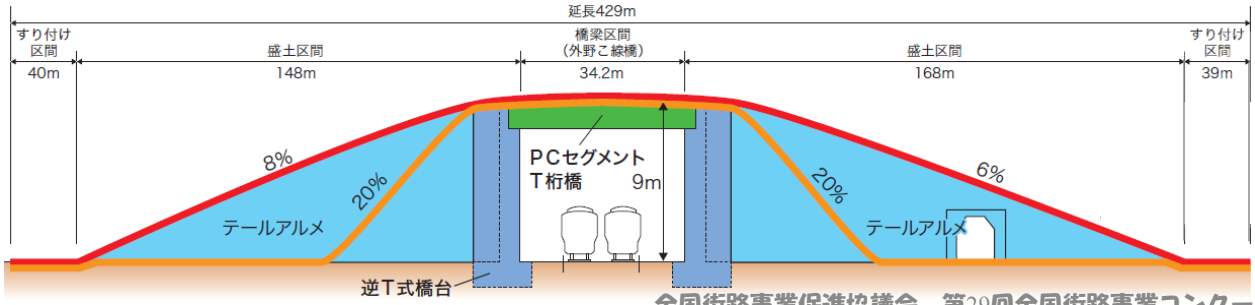


盛土区間



縦断図

縮尺：FREE



事　業　前　写　真

事業前（西側交差点）　平成20年10月撮影

事業前（東側交差点）　平成20年10月撮影

事業前（既存の狭隘道路）　平成20年10月撮影

事業前（田彦道踏切）　平成20年10月撮影

事　業　後　写　真

事業後（西側交差点）　平成28年10月撮影

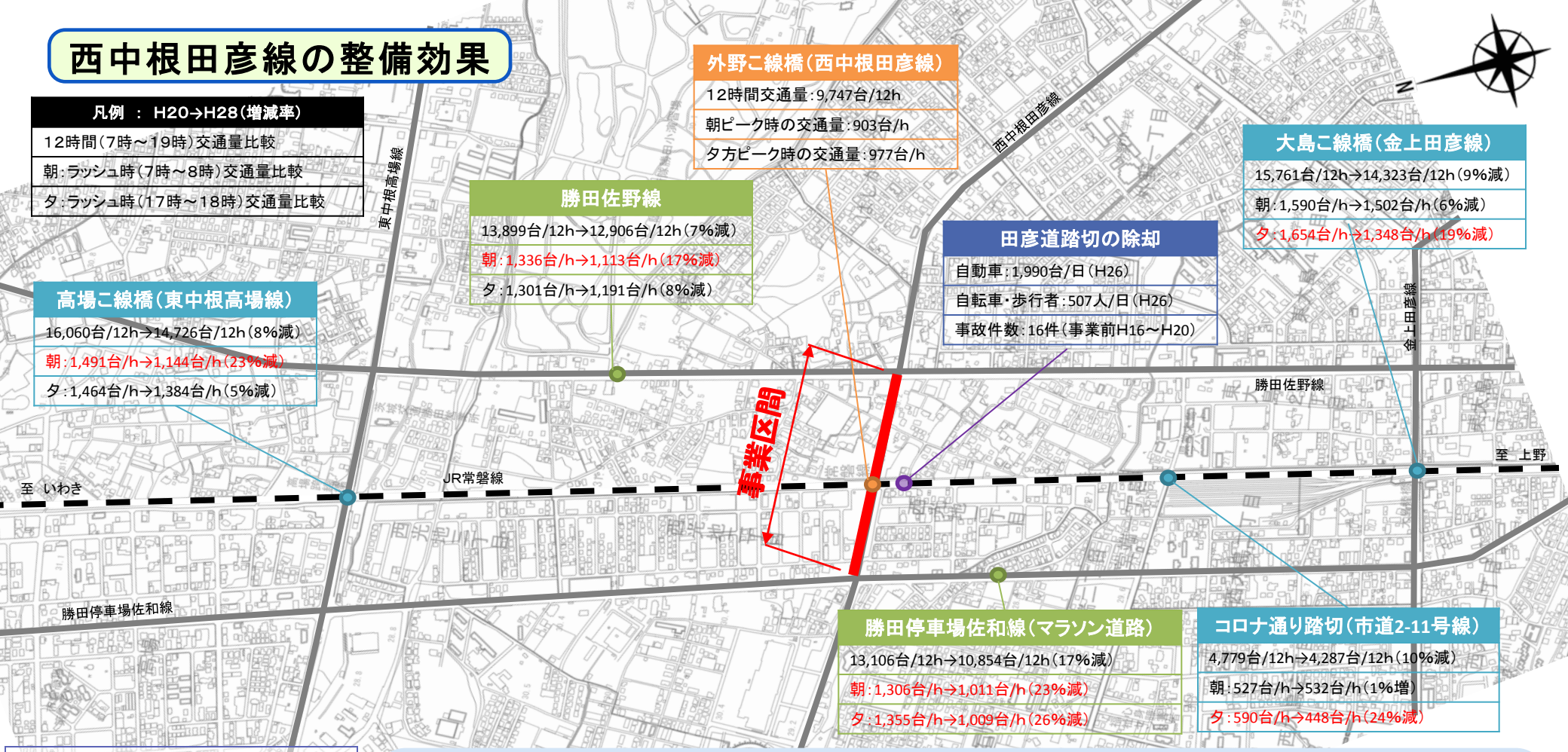
事業後（東側交差点）　平成28年10月撮影

開通式の様子　平成28年2月撮影

開通式の様子　平成28年2月撮影

西中根田彦線の整備効果

凡例 ： H20→H28（増減率）
12時間（7時～19時）交通量比較
朝：ラッシュ時（7時～8時）交通量比較
夕：ラッシュ時（17時～18時）交通量比較



外野こ線橋（西中根田彦線）
- 12時間交通量：9,747台/12h
- 朝ピーク時の交通量：903台/h
- 夕方ピーク時の交通量：977台/h

勝田佐野線
- 13,899台/12h→12,906台/12h（7%減）
- 朝：1,336台/h→1,113台/h（17%減）
- 夕：1,301台/h→1,191台/h（8%減）

高場こ線橋（東中根高場線）
- 16,060台/12h→14,726台/12h（8%減）
- 朝：1,491台/h→1,144台/h（23%減）
- 夕：1,464台/h→1,384台/h（5%減）

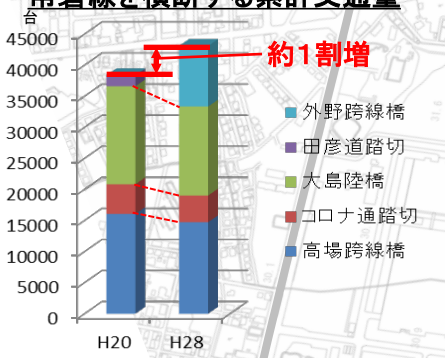
田彦道踏切の除却
- 自動車：1,990台/日（H26）
- 自転車・歩行者：507人/日（H26）
- 事故件数：16件（事業前H16～H20）

大島こ線橋（金上田彦線）
- 15,761台/12h→14,323台/12h（9%減）
- 朝：1,590台/h→1,502台/h（6%減）
- 夕：1,654台/h→1,348台/h（19%減）

勝田停車場佐和線（マラソン道路）
- 13,106台/12h→10,854台/12h（17%減）
- 朝：1,306台/h→1,011台/h（23%減）
- 夕：1,355台/h→1,009台/h（26%減）

コロナ通り踏切（市道2-11号線）
- 4,779台/12h→4,287台/12h（10%減）
- 朝：527台/h→532台/h（1%増）
- 夕：590台/h→448台/h（24%減）

常磐線を横断する累計交通量



「整備効果」
- ＪＲ常磐線を横断する大島・高場の跨線橋や踏切道（コロナ通り）で１割程度交通量が減少した。
- 特に，高場跨線橋では朝のラッシュ時に２割以上交通量が減少し，大島跨線橋やコロナ通りの踏切では夕方のラッシュ時に２割程度交通量が減少した。
- 常磐線と並行する勝田佐野線やマラソン道路においても，開通の効果で全体的に交通量が減少傾向にあり，朝夕の通勤ラッシュ時の交通量も１割から２割程度減少した。
- 一日あたり自動車１，９９０台，自転車・歩行者５０７人が競合し，事業前の事故件数が５年で１６件あった狭隘な田彦道踏切を除却した。

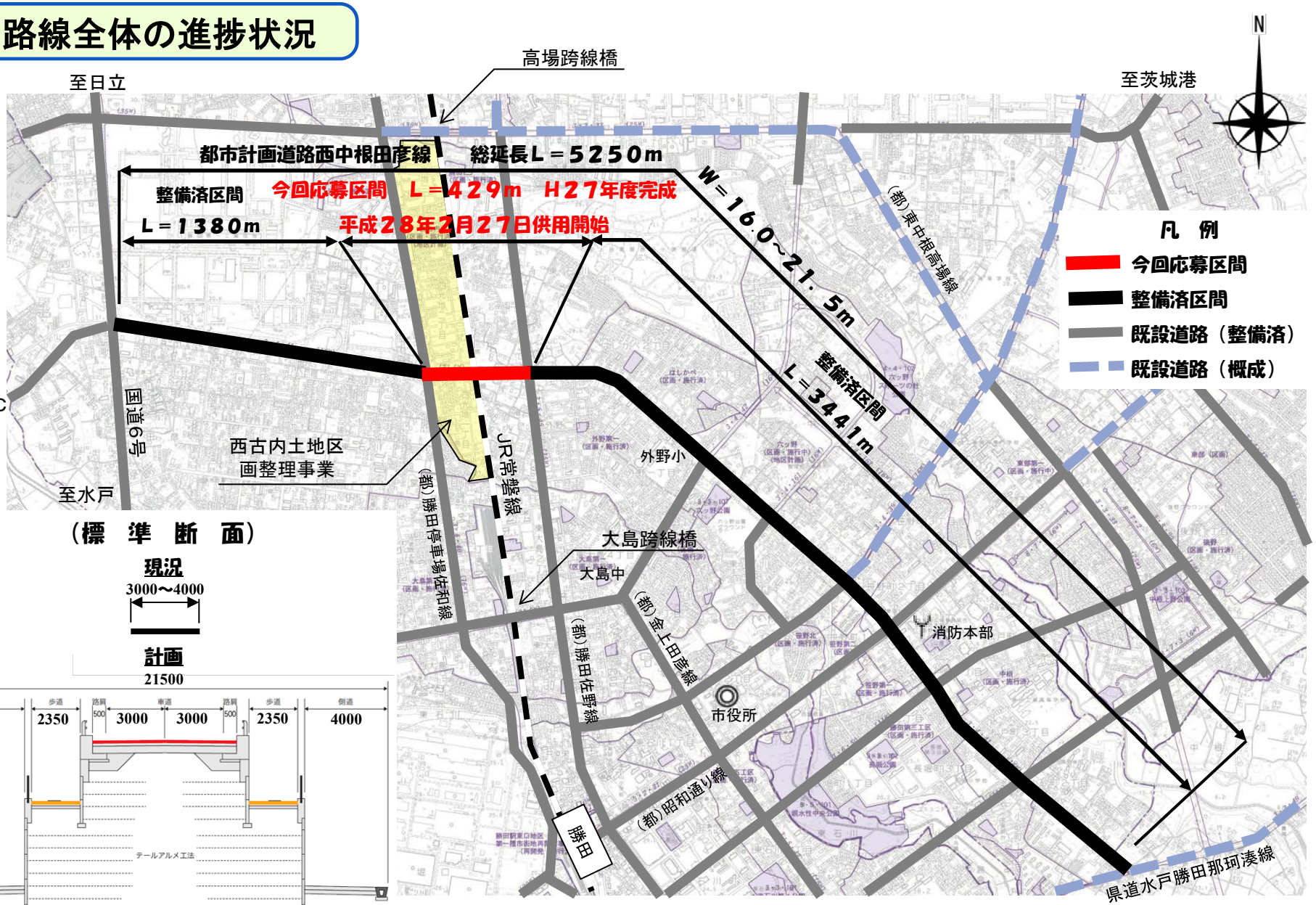
「その他の事業効果」
- 以上のような鉄道横断部周辺における慢性的な渋滞緩和に係る効果のほか，開通に伴う利便性の向上により，常磐線を横断する交通量全体では１割程度増加し，経済活動の活性化や東西に分断された地域交流の拡大に繋がった。

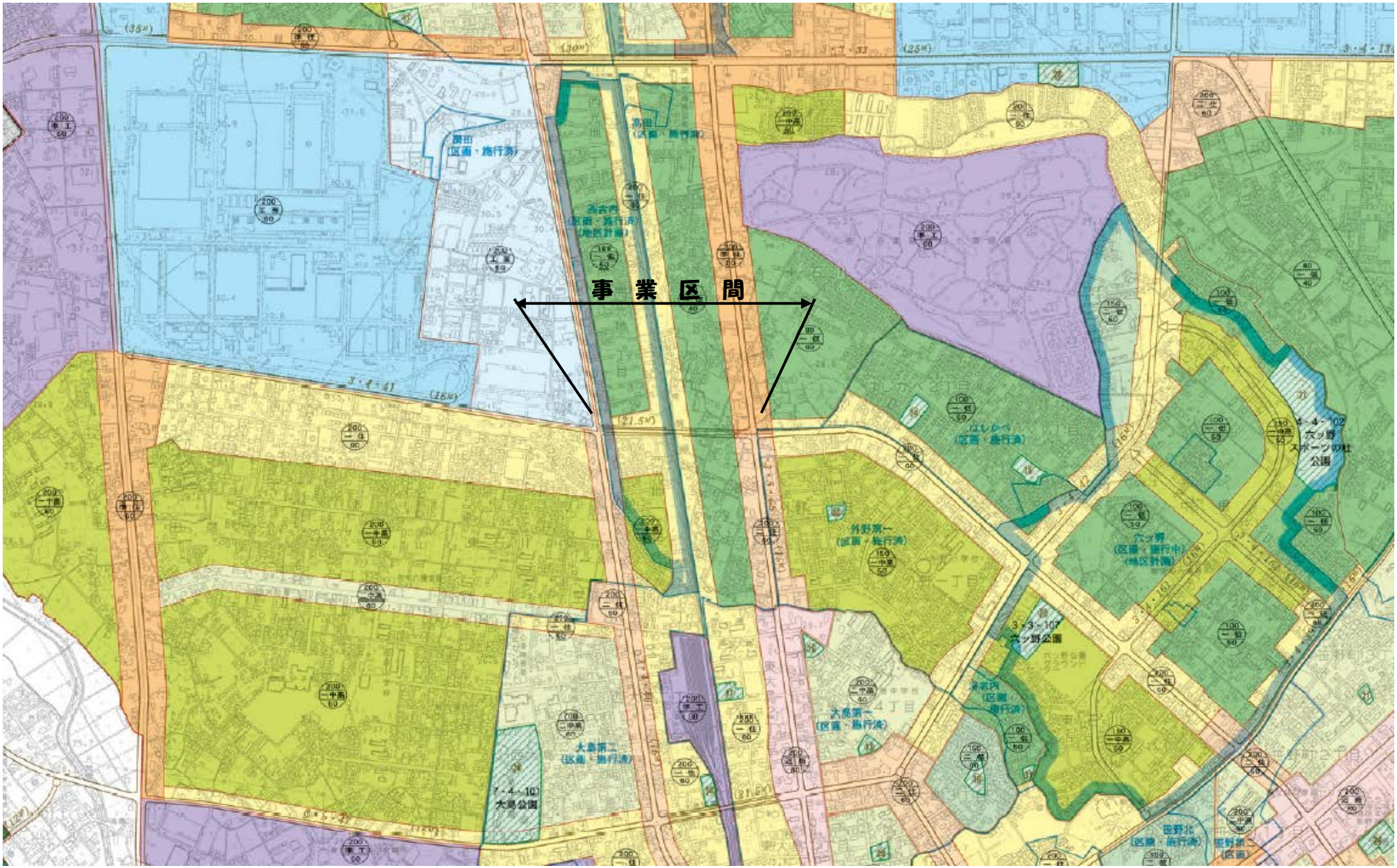
事　業　効　果　一　覧　表

大項目	中項目	小項目	指　　標	該当項目
事業の効果	円滑な交通	物流を支える	・整備水準の低い地域の改善に寄与した。 ・道路ネットワークの形成に寄与した。	◎
		渋滞のない交通環境を実現	・交通渋滞の緩和・解消に寄与した。	◎
		公共交通の利便性向上	・バス、鉄道の利便性向上に寄与した。	△
	安心・安全な生活	安全な道路交通の実現	・交通事故の防止に寄与した。	○
		誰もが通りやすい歩行空間の実現	・歩行者・自転車の安全な通行空間の確保に寄与した。	◎
		災害に強い安全な市街地、集落の形成	・災害時における安全性の向上と円滑な避難・救援に寄与した。	○
	まちづくり・地域活性化	都市（地域）連携を進める	・中心都市へのアクセス向上やまちづくりに寄与した。	◎
		都心の活力を高める	・中心市街地の活性化に寄与した。	○
		地域経済の振興を支援する	・都市（地域）の経済活動の拡大に寄与した。	○
	アメニティの向上	沿道環境の改善	・沿道環境の改善や充実に寄与した。	○
		うるおいのある道路空間の創出	・周辺の景観に配慮し、良好な道路空間等の創出に寄与した。	△
		歴史・文化の保全	・歴史･文化の保全に配慮し、歴史的景観等の創出に寄与した。	△
	事業実施に伴う効果	コスト縮減等	・工費節減に工夫を凝らし、実績を上げた。 ・事業期間の短縮や環境対策などの社会的コスト縮減を図った。	△
		事業期間等	・当初の事業期間を短縮し、前倒しで供用開始した。 ・短い事業期間で大きな事業効果を発揮した。	○

※当該事業において、最も事業効果が現れたものから重み付けをしてください。
　◎効果大　○効果中　△効果小

路線全体の進捗状況


高場跨線橋
至日立
至茨城港
N
都市計画道路西中根田彦線
総延長L＝5250m
整備済区間
L＝1380m
今回応募区間　L＝429m　H27年度完成
平成28年2月27日供用開始
W＝16.0～21.5m
整備済区間
L＝3441m
(都)東中根高場線
凡　例
今回応募区間
整備済区間
既設道路（整備済）
既設道路（概成）
至那珂IC
国道6号
至水戸
西古内土地区
画整理事業
JR常磐線
(都)勝田停車場佐和線
外野小
大島跨線橋
大島中
(都)金上田彦線
(都)勝田佐野線
消防本部
市役所
(都)昭和通り線
勝田
県道水戸勝田那珂湊線
（標　準　断　面）
現況
3000～4000
計画
21500
側道
4000
歩道
2350
路肩
500
車道
3000
3000
路肩
500
歩道
2350
側道
4000
テールアルメ工法

都市計画図

1：15,000